

地元で働ける しあわせ

都会で自分を試したい！
華やかな都会に憧れて！
地元の仕事がなくて、やむをえず
理由はさまざまですが、多くの若者が、
高校を卒業後、進学、就職のために
南島原を離れます

その一方で、地元で職を求め、
地元で暮らす人たち。

今は、そんな人たちの
「仕事」と「暮らし」に焦点を当て、
「地元で働けるしあわせ」と
題して特集します。

Part 1 一家3世代！同じ仕事ができるしあわせ



地域のために！
がんばれ

人の役にたつように
がんばれ

まかせてください。

南島原市の基幹産業「農業」。
ですが、次代の担い手となる新規
就農者は、例年20人程度。その数も
平成14年の36人をピークに例年減少
傾向にあります（県の新規就農者実
態調査）。

子 山下拓也さん

父 山下勝也さん

祖父 山下勝さん

確かに屋外でのきつい作業や、収
入が天候や市場に左右されるなどの
イメージから、就業先として敬遠さ
れる傾向にありました。しかし、平
成21年の同調査の新規就農者は23人。
平成13年から行われていた調査の中
では3番目に多い数字となっていま
す。

ここでは、家族3代で農業に取り
組んでいる山下さん一家から、南島
原市の農業、南島原市の地域と家族
のありようをお聞きます。

「親子3代で農業をやる。こんな
幸せはないぞー！」

勝也さんは、最近になって、特に「あ
あ、本当によかった。この町に住み、
農業をしていてよかった」と思うよう
になったそうです。

勝さんも満足げに言います。「子ど
もや孫と一緒に仕事ができる。孫の嫁
も一緒にね。本当にうれしいよ。こん
な幸せはないぞ、と友だちからも言わ
れるんだ」

「祖父と農業がしたい」

勝也さん、そして拓也さんも若いこ
ろから、農業をやることを考えていた
そうです。拓也さんは、高校卒業後、
造船所に就職しましたが、2年後退職。
周囲の驚きをよそに、「祖父（勝さん）
も高齢。大好きな祖父と、元気なうち
と一緒に農業をしたかったから。まあ、

5年たった今も、元気がよくなるくらい元
気ですけど」

後悔はしませんでしたか？と尋ねる
と「もちろんありません。だって、妻
とめぐり逢えましたから」と照れる拓
也さん。納得です。

「人とのかわり方」

布津地区消防団副団長などの職を歴
任する父勝也さんは、人とのかわり
方が気に入っているそうです。

「出会った人、大事な人は、ずっと
仲間。変わらない信頼がいい」と話す
勝也さん。

また、今、拓也さんも、島原半島地
区青年農業者連絡協議会（農業後継者
組織）の役員（事務局）として活躍し
ています。同じ志を持つ人との出合い
が魅力なのか。一緒に暮らす中で、
父勝也さんの考えが息子の拓也さんに
受け継がれているのかもしれない。

「変わる田舎の評価」

最も景気の良かったころ、多くの若
者が田舎を評して「娯楽の少なさ」と
並んで口にしていたのが「しごらみ」の
わずらわしさでした。時代は変わり、
娯楽や喧騒、都会の希薄な人間関係で
はなく、人と人の温もりや深い人間関
係を選ぶ若者が増えてきたのかもしれ
ません。そして、そんな若者が担う
日本の未来は、とてもすてきなもの
になるのではないか。そんな気さえする
のです。

「農業は、休みさえも自分でマネ
ジメントできる」

拓也さんに不満は何かありません
か？と最後にちょっといじわるな質問
を。
「日曜日は休みのはずなんですけど、
なかなかね」と苦笑。家族協定で日曜

を。

日は休み、と決めているのだから。で
すが、勝也さんからは少し違う答えが。
「確かにね。自然が相手だから、毎
週同じ日に休むのはちょっと難しい。
でも、だからこそ、ほとんど休めと言
っています。ただ、そう言っても休ま
ない。休みたいけど、仕事の段取りな
んかを真剣に考えているから、休めな
いことも多い。そこにシレンマがある
でしょう。僕もそうだった。その気
持ちはわかるから、「休め」とも言う
のですが」

まだ十分ではないけれど、拓也さん
は、休みもマネジメントし始めている。
そのことを勝也さんは、気づき、頼も
しく思っています。

「山下家は、明るい家庭」

拓也さんの奥さんの弥佳（みか）さ
んも、嫁いで3年目。お義母さんとも
仲良しで、取材の途中でも、冗談を言
い合うほどの仲。

「嫁いだ当初は、わからないことは
かりでした。でも、嫁いだときからは
つきりわかっていくことがありました。
それは、この家はとても明るくて楽し
そうだね、ってこと。今もその気持ち
は変わりませぬね」

家族3世代と一緒に仕事ができるし
あわせ。それは、家族みんなで笑いあ
える「しあわせ」でもあるのです。

今月の特集は、
僕たちが手伝いました



左から荒木君、池田君、田中君

今月の特集では、
西有家中学校の2
年生、池田賢悟君、
荒木豪君、田中規
大君の3人に、写
真撮影や、インタ
ビューなどを手伝
っていたきました。

3人は、市商工会の川口会長へのイ
ンタビュー（7ページ）を行ったあと、
吉田屋で吉田嘉明さんの写真撮影（8
ページ）を行い、最後は深江町の商店で、
日本トータルテレマーケティング株式
会社に対する市民の反応を取材（7ペ
ージ）しました。

緊張の面持ちの3人でしたが、皆さ
んの協力もあって無事終了。今回の特
集では、そんな3人の奮闘も、想像し
ながらお楽しみください。

職場体験学習

西有家中学校が例
年行っている「職場
体験学習」。今年も、
2月2日から3日間、
同校の2年生78人が、
市内の商店や事業所
で実際に仕事をしな
がら、働くことの意
味や、その大切さを
学んだ。



川口会長からは、いろいろ教えてもらいました。



7人目の家族。ハチペエ。
おじいちゃんが好き！